

関東支部 2013 年度（平成 25 年度）第 1 回研究会報告

2013 年(平成 25 年)12 月 7 日(土),目白大学新宿キャンパスにて,日本インターンシップ学会関東支部 2013 年度第 1 回研究会が開催された。関東支部では、目下、「長期インターンシップ導入に向けての検討」という統一テーマに取り組んでいる。今般は「長期インターンシップの動向」というテーマで開催し、約 40 名の参加者を得て活発な議論がなされた。また終了後、情報交換会（懇親会）が別館食堂ホール（地下 1 階）で開催された。

まず、電気通信大学准教授奥 浩昭氏より『『出会う』ということ IAESTE 海外インターンシップ研修』と題する基調講演を頂き、続いて学生による長期インターンシップ実習成果発表が実施された。インターンシップ体験大学生 7 名（5 大学）からは、後述する内容が報告され、最後に電気通信大学田中宣秀氏による総括を行って、第 1 回研究会は終了した。



基調講演に入る前に IAESTE 事務局長代行も兼ねておられる奥 浩昭氏より IAESTE という海外インターンシップの派遣組織について、「1948 年に英国で誕生し、わが国は 1964 年に日本委員会として加盟し、最近では毎年 70~90 人派遣している理工農薬学系の海外交換制度をもつ組織である。この組織は、人文・社会科学系の海外インターンシップを実践している AISEC に劣らず、教員とボランティアの学生が積極的に活動しているので、今後参加者が増えることを期待したい。詳細について IAESTE のホームページを参照して欲しい」との紹介があった。

基調講演では、インターンシップの体験を通して「人と出会うこと」を大事にすること、その体験から得ることの重要性を強調されていた。竹西寛子氏や西江雅之氏の言葉を引用し、人と出会った体験を大事にするためには、「事物を仰がず見下さず、ありふれた事や物にありふれぬものの顕れを直観する心眼の大事さ(竹西寛子氏『海からの風』)」を認識すること。また、「誰か、あるいは何かと本当に出会うということは、当人の知識や感性のあり方を抜きにしては語れない。本当は、どこに行つても、見る目さえあれば、世界は豊かな驚きに満ちているはずだ。隣近所の風景でも、親しい人たちの中にも、見出そうと思えば、普段は見えない様々な面が多く見えてくる。ただ、多くの場合、そうした出会いをすばらしいものにする当人の実力が伴わないというだけである。本当の出会いには、本気と覚悟が必要だ。その意味では、「出会いは実力だ。(西江雅之氏『朝日新聞』2008 年 9 月 2 日朝刊 23 面の言葉)」と誠に感銘深いご講話を頂戴することができた。



次に、インターンシップ体験学生によるテーマと発表内容について簡単に報告しておく。

(1) 文教大学 堀川 健太郎氏

最初に、文教大学の堀川 健太郎氏より「JTB 東北福島支店法人営業の実習」(実習期間：10日とボランティア6日)をテーマにしての報告があった。実習内容は、ツアバス座席表作成、営業同行などであり、「実習を通して旅行業は、ただ旅行が好きでは勤まらない、常に笑顔の必要性を認識することができた。また、旅行することは、安全第一であり、それを通しての人との交流が大切であることも分かった。実習のおかげで旅行業に興味を抱き、就職先としても考えるようになった」と体験を通しての感想が紹介された。



(2) 目白大学 高階 彩氏

次に、目白大学高階 彩氏より「イベント企画を通して出版の仕組みを学ぶ」(実習期間2ヶ月・8・5~9.27)をテーマに報告があった。実習内容は、徳間書店での LARME の編集・撮影・取材(ピック・返却作業)、撮影アシスト、イベント設営の Assist などであった。「この実習により、情報に敏感に(状況を把握)になること、行動への考え方、自分の考え方などが固まり、物事に冷静に、順序立てて行動することができるようになった。おかげで、就職活動の際に、自分で進みたい就職先の方向性が明確になった」との発表がなされた。

(3) 玉川大学観光経営学科 陣内 まゆみ氏および渡部 翔平氏

玉川大学観光経営学科陣内 まゆみ氏および渡部 翔平氏から「自治体(南さつま市役所)でのインターンシップから得られたもの」(実習期間：約3週間・8月27日~9月14日)というテーマの報告があった。実習内容は、観光情報のWEB上発信、企画課等での業務見学、民泊体験(修学旅行)、HPの提案・改善(農家体験の名称で市民に発表)などであり、「玉川大と南薩摩市との交流実現へ(包括提携利用)と地域の活性

化についての認識がたかまった。今後の就職についても、希望する公務員の立場で再検討することができた」との感想が紹介された。



(4) 山梨学院大 滝沢 恵氏

山梨学院大滝沢 恵氏からは、「長期インターンシップで学んだこと(観光ホスピタリティ実践)」(実習期間8月5日~9月20日・本年から)をテーマに報告があった。実習内容は、Peninsula Tokyoでの開店・閉店作業、ランチボックス販売などであり、「実習を通して一流サービスがどのようなものかを体験し、世界遺産となった富士山の観光としての役割とホテルを訪れるお客にどのようにそれを伝えるかなどを学んだ。ホテル側の実習体制が整っていることに注目し、これからの就職に参考としたいと感じた」との報告がなされた。

(5) 嘉悦大学 木下 範之氏および山本 圭祐氏

最後に、嘉悦大学の木下 範之氏および山本 圭祐氏より「取材して書く~ジャーナリズムの実践教育」(実習は、通年1年半に渡るビジネス創造学部のゼミ活動)をテーマに、講談社でのインタビュー実践による報告があった。「この体験を通して、ニュースの見方が変わるとともに、完成された仕事はないことなど多くのことを学んだ。それにより、就職先としても講談社に入れたら最高であると感じ、がんばろうと思った」と感想が述べられた。

田中 宣秀氏の総括では、学生の発表レベルが相当高いこと、将来の方向性が固まったという意味において長期インターンシップ推進の意義を見出すことができたこと、質問をされた教職員も学生の素晴らしさに啓発された筈であること、長期インターンシップを通して、将来の職業との繋がりの可能性を痛感したことなどが挙げられた。